



こんにちは

横浜市議員

日本共産党

週刊ニュース

北谷まり子

発行：北谷まり事務所

横浜市保土ヶ谷区

上星川2-1-13

TEL：045-381-1713

FAX：045-381-1716

ハマ弁ではなく安全で温かい給食を

今年1月から全市立中学校で実施が始まったハマ弁。しかし、利用率（喫食率）は、教職員分を合わせても1.5%にもなりません（2017年4～7月）。ハマ弁には、2016年度、2017年度の2年間だけで10億円も税金を使っています。

肉類・魚類の多くが外国産

ハマ弁は学校給食法に基づかない業者配達弁当です。業者まかせのため、食材には外国産が多く使われています。ハマ弁の提供業者ハーベスト（株）では10月の使用食材肉類は10品目のうち9品目、魚類は18品目のうち15品目が外国産です。

株式会社 美幸軒 2017年10月ハマ弁使用予定食材一部

肉類	とりもも肉	オーストラリア産
魚類	蒸しかまぼこ	アメリカ産
野菜類	グリーンピース（冷凍）	アメリカ産
調理加工	白身フライ（冷凍）	チリ、アルゼンチン産

ハーベスト株式会社 2017年10月ハマ弁使用予定食材一部

肉類	とりもも、むね肉	ブラジル産
魚類	まあじ	ニュージーランド産
野菜類	ブロッコリー	エクアドル産
その他	和風ドレッシング	アメリカ、カナダ産

無償提供の支援は16人

一方、市教育委員会は、生活環境により、昼食の用意が困難な生徒へは無償で提供するとしていました。予算としては3000万円、全体の1%、約800人の想定です。しか



し、無償提供の支援を受けているのは全校で16人です。

林市長は、7月の市長選挙で、ハマ弁を値下げし、給食並みにすると公約（現在はごはん・おかず、汁物、牛乳で470円）。金額を下げれば利用率（喫食率）は上がるのでしょうか。

なぜ横浜の中学生には『給食』という選択肢を示さないのか

第3回定例会（9月～10月開催）で、党市議団は、ハマ弁ではなく「給食」であれば、就学援助を受けている家庭は、無条件で無料になると指摘し、なぜ横浜の中学生には『給食』という選択肢を示さないのかと林文子市長に迫りました。林市長は、各家庭のライフスタイルに合わせて「ハマ弁、家庭弁当、業者弁当を組み合わせで利用できる選択制を進めることで、中学生の昼食を充実させたい」、給食については「何も悪いと思っていない」と答弁し、給食を実施しない理由にはふれませんでした。